

1. テーマ

多様な性を持つ子どもたちが自分らしく居られる学校をめざして  
～教職員を対象としたLGBT研修のとりくみ～

2. 設定理由

現在、LGBTを取り巻く環境は大きく変化し、人々の関心は高まりつつある。しかしまだまだ社会的に存在するLGBTへの差別や周囲の人の無理解、いじめ、将来への不安など、LGBTの子どもの自尊感情を低下させる要因は日常の中に数多く存在する。

教育現場でも、性自認や性的指向により困難が生じる子どもへの対応を行うことは責務となっており、まずは私たち教職員がLGBTについて学ばなければならないと感じた。多様な性を持つ子どもたちが自分らしく居られる学校を目指して本主題を設定した。

3. 研究仮説

教職員のLGBTに関する調査に基づいた校内研修を行えば、LGBTに対する知識と意識の向上がみられ、多様な性を持つ子どもたちへの適切な対応へつながるであろう。

4. 研究内容

- (1) 教職員のLGBTに関する知識、意識、経験等の実態把握（事前アンケートの実施）
- (2) 教職員研修の実施
- (3) 教職員研修後の知識、意識の実態把握（事後アンケートの実施）

5. 結論

- 実態調査の結果から、LGBTという言葉や意味は知っているが、どのように対応すればよいかかわからず、LGBTについて学びたいという教職員が多くいることがわかった。
- 実態に応じた教職員研修の実施により、LGBTに対する知識と意識の向上がみられた。
- 多様な性を持つ子どもたちが居るという視点を持ち、具体的なとりくみを行う教職員や学校が増えた。

5 部会 四街道市養護教諭部会  
発表者 四街道市立旭中学校 藤田 靖子  
四街道市立吉岡小学校 花原 玲子

## 1. はじめに

現在、LGBTを取り巻く環境は大きく変化し、関心が高まりつつある。2019年にはLGBT当事者が、参院選で当選を果たした。また、お茶の水女子大学・奈良女子大学では、2020年度から戸籍上は男性でも性自認は女性のトランスジェンダーの学生を受け入れている。2021年に開催された東京五輪・パラリンピックのオリンピック憲章に、性的マイノリティの人々への差別禁止が盛り込まれる等、性的マイノリティに対する関心が高まっている。

2015年4月30日には文部科学省から「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について」という通知が出され、学校現場において、性同一性障害を含む性的マイノリティの子どもたちに対しての支援や、教職員や子どもたちの理解向上に努める必要性が明記された。社会的に存在するLGBTへの差別や周囲の人の無理解、いじめ、将来への不安など、LGBTの子どもの自尊感情を低下させる要因は日常の中に数多く存在する。自尊感情の低下によって、積極的に活動できなかつたり、主体的に物事に取り組めなかつたり、将来に対しても夢や希望を持てなかつたり、人間関係の構築に支障をきたしたりする。

LGBTが自殺におけるハイリスク層であることは「自殺総合対策大綱」（2012年8月28日閣議決定）にも明記され、特に自殺念慮が高まる時期が思春期であることも、学校現場での理解向上や支援体制の整備が急務であると考えられる理由の1つである。2018年電通ダイバーシティラボ調査によるとLGBTの推定人数は人口の8.9%、13人に1人の割合になるといわれ、性自認や性的指向により困難が生じる子どもについても教育現場で想定し、対応を行うことが責務であり、多様な性を持つ子どもたちが自分らしく居られる学校を目指して本研究をすすめることとなった。

## 2. 研究仮説

教職員のLGBTに関する調査に基づいた教職員研修を行えば、LGBTに対する知識と意識の向上がみられ、多様な性を持つ子どもたちへの適切な対応へつながるであろう。

## 3. 研究経過

年度	内容
2018年 (平成30年度)	○研修テーマの検討 ○アンケート作成 ○介入方法（教職員研修）の内容検討、準備 ○教職員研修資料の作成
2019年 (令和元年度)	○アンケート作成 ○教職員研修資料作成 ○研修 8月 柏市教育委員会の取り組み 講師：柏市教育委員会児童生徒課長 「性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒への理解と対応」 講師：柏市立西原小学校教頭 保護者
2020年 (令和2年度) 2021年 (令和3年度)	○事前アンケート調査実施、まとめ ○相談窓口一覧・相談項目シート作成 ○教職員研修の実施 ○教職員研修内容の修正、改善 ○事後アンケート調査実施、まとめ

#### 4. 研究内容

##### (1) 教職員のLGBTに関する知識、意識、経験等の実態把握

###### ① アンケート内容の検討、作成

- ・事前アンケートでは知識面、意識面、経験の3点についての内容を入れることでアンケートの結果に生かせるように作成した。
- ・LGBTという言葉は知っていても内容についての判断は難しいと思われたため、定義を載せた。
- ・事後アンケートでは、事前アンケートと同様の質問をすることで知識、意識の変化を探った。「性別で分けない対応」については、事前アンケートでは性別で分けない対応をしているまたは対応したことのある項目の選択をしてもらうことで、実態について問い、事後アンケートでは、性別で分けない対応ができると思われる項目の選択をもらうことで、意識を問うようにした。

###### ② アンケートの実施 【資料1】

調査時期	事前	2020年(令和2年)4月～
	事後	2021年(令和3年)2月～
対象	教職員(小学校8校159名 中学校2校55名)	
調査方法	質問紙調査	

###### ③ 集計・考察 【資料2】

事前アンケートの結果、次のようなことが分かった。

- ・LGBTという言葉は94.9%の教職員が知っているという回答したが、具体的に説明できると答えた教職員は65.4%と減少する。(資料3項 グラフ1・2より)
- ・LGBTについて学ぶ必要があると答えた教職員は「思う」「少し思う」を合わせて98.6%と教職員のほとんどが感じている。(資料3項 グラフ3より)
- ・LGBTについて、相談や対応した経験があるのは12%と少なく、相談にのる自信があると答えた教職員は4.7%ととても低い。(資料3項 グラフ5・6より)
- ・学校での教育の必要性も「思う」「少し思う」を合わせて92.9%が感じている。(資料4項 グラフ9より)
- ・差別発言を校内で見聞きしたことがあると答えた教職員が28%いた。(資料3項 グラフ7より)
- ・性同一性障害に係る文部科学省の通知や法律を知っている教職員は51.9%であり、過去5年間に研修を受けた教職員も25.7%と低い。(資料3項 グラフ8 資料4頁 グラフ10より)

上記の結果から、LGBTという言葉はほとんどの教職員が知っているが、具体的に説明できる教職員は多くなく、通知や法律を知っている教職員は約半数であることが分かった。しかし、自ら学ぶことや、学校での教育の必要性があると感じている教職員は多くいることが分かった。アンケートの結果を受け、教職員研修では、LGBTとは何

かをはじめ、法律や通知などの教育の根拠を伝えること、本人への心の支援など相談を受けた際の対応・周囲への偏見への対応・環境面の支援について研修することで教職員の自信につながると考えた。

また、差別発言を見逃すことは差別を認めることにつながりかねないため、指導のチャンスとして教職員が自信を持って指導できるよう教職員研修の中に盛り込むこととした。

相談や対応した経験がある教職員は少なかったが、その中でも、設問6では、実際に当事者と思われる児童生徒や家族からの相談を受けた際の対応で困ったことを記述してもらった。本人や保護者の心のケアに関すること、周りの児童生徒への対応や初めて相談を受けたときにどうしたらよいか、着替えや制服、服装、トイレ、呼び方に関すること等が挙げられていた。この結果から、困っていることは何か、対応してほしいことは何か等、相談時の対応の際に漏れ落ちなく確認できるような「相談項目シート」【資料3】を作成した。校内のルールに添えない場合の対応への不安については教職員研修に盛り込むことで、理解の向上につながると考えた。また、相談窓口一覧【資料4】を作成し、必要な時にはすぐに相談機関を紹介できるようにした。

## (2) 教職員研修の実施

### ① 年間計画の作成

月	テーマ	研修内容	研修資料
4月	事前アンケートの実施		
5月	第1回 LGBTとは何か ～教育現場でなぜ LGBT?～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性のあり方</li> <li>・セクシャルマイノリティの人たちをあらわす言葉</li> <li>・LGBTの人たちは身近にいるのか?</li> <li>・性同一性障害に係る取組の経緯</li> <li>・新聞記事「変わる小学校の体育教科書」</li> </ul>	漫画 「男らしいってなんだろう」 別紙 「性同一性障害に係る取組の経緯があります」 新聞記事 「変わる小学校の体育教科書」
7月	第2回 学校としてできること① ～本人への心の支援～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・LGBTの人たちの不安</li> <li>・相談を受けたら</li> </ul>	漫画 「見えない未来」 別紙 「相談窓口一覧」 「相談項目シート」
9月	第3回 学校としてできること② ～周囲の偏見への対応～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周囲の偏見</li> <li>・今からできることチェック</li> <li>・よくある誤解や質問</li> <li>・おすすめの本</li> </ul>	漫画 「本当の自分 出してもいい？」
11月	第4回 学校としてできること③ ～環境面での支援～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが過ごしやすい学校へ～校則や設備の見直し～</li> <li>・各都道府県でのとりくみ</li> </ul>	漫画 「窮屈な学校生活」
12月	事後アンケートの実施		

### ② 研修資料の作成【資料5】

### ③ 養護教諭（講師）向けシナリオの作成

導入 漫画より	みなさん、まず配付しました資料の漫画をお読みください。これから第1回目のLGBT研修を行います。初回のテーマは、基礎知識と教育現場で取り扱う必要性についてです。 この漫画の主人公白石さんは、男子です。可愛い物が好きで女子とも話が合うようです。しかし、周りの男友達は、男が可愛い物を身に付け、女子と仲良くしている白石さんに違和感を感じています。女友達からは「男の子なんだから、言い返した方がいいよ。」と言われてます。帰宅すると、更に母親から「またそんな女の子みたいな物つけて」とダメだし・・・主人公の白石さんは「男らしいって何だろう・・・」と悩んでいます。	導入 漫画より	みなさん、まず配付しました資料の漫画をお読みください。これから第3回目のLGBT研修を行います。今回のテーマは、周囲の偏見への対応です。この漫画の主人公ケイタさんの好きなのは、女子ではなく、同性の男子のようです。周りの友人たちは、男が男を好きになるのは「きもちわる」とか、「おかしくね」と言っています。ケイタさんは、気持ちが悪く、おかしい人間だと言われ、自分はそのとおりだと思わざるをえません。しかし、別の友人の「平気なものもさわぐことじゃない」「カッコいい俳優も男同士で結婚していた」「だれがだれを好きでも関係ない」という発言を聞き、主人公のケイタさんも希望を見出す…という内容です。
展開	資料の裏面をご覧ください。 まず「性のありかた」についてお伝えします。「性のありかた」は「セクシュアリティ」と呼ぶこともあります。性は「からだの性」「こころの性」「好きになる性」「表現する性」の4つの軸で考えることができます。「からだの性」とは遺伝子などの生物学的な性。「こころの性」とは自分が認識している性。「好きになる性」とは好きになる相手の性別。「表現する性」とは服装、しぐさ、言葉使いなどです。	展開	資料の裏面をご覧ください。 右上の写真のある吹き出しには、先生と生徒とのやりとりについて述べられています。授業で先生の「結婚したいと思う条件を書いてみて」といった質問に対し、「異性」という回答がありました。「あたりまえじゃーん」というクラスのヤジに対し、先生は、「異性が当たり前というけど、世の中には同性をパートナーに選ぶ人もいるからね」と発言し、この生徒は、わかっている大人がいるんだ、感動したと言っています。この先生のような発言を自然に出来るといいなと思います。

### ④ 養護教諭（講師）向けワンポイントアドバイスの作成【資料6】

### ⑤ 実践

#### <研修方法>

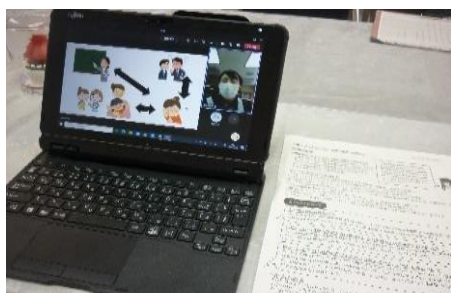
時期 2020年（令和2年）4月～2022年（令和4年）3月

対象 市内小中学校10校の教職員

講師 各校の養護教諭

#### <共通理解事項>

- ・職員会議終了後を基本に、各校の実態に合わせて終礼後、または夏休みに実施する。
- ・実施月は学校裁量で変更可能。
- ・場所は職員室を基本に、各校で実施しやすい場所で行う。
- ・導入（2分）、情報提供（6分）、まとめ（2分）計10分を基本に、各校の実態に合わせて実施する。
- ・研修終了ごとに、教職員研修実践記録用紙（所要時間、何の時間に行ったか、教員の反応、良かった点、反省点、次回への改善点、シナリオ以外の方法で実践したこと）【資料7】に記入する。
- ・教職員研修実践記録用紙は次回研修日に持ち寄り実施方法や研修資料の見直しを行う。



<教職員研修実践記録用紙より>

<p>職員の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学時代に LGBT と思われる友人がいたという話をしている教職員がいた。研修を行うことで自分の身近の人のことを考える機会にもなったと思われる。[C 中学校]</li> <li>・「この研修おもしろい」とかなり興味を示し、LGBT について理解しようとする様子がみられた。[E・I 小学校]</li> <li>・日本人に多い苗字と同じ割合の説明に驚いていた。クラスの児童で女子とばかり関わる男子児童が気になっていたが、それでいいんだと思った。[F 小学校]</li> <li>・1 回目は、研修後の教師間の話題が広がったが、共通理解には至らなかった。[G 小学校]</li> <li>・緊急事態宣言中のため、リモートで Teams を活用して実施したため先生方の反応は分からなかったが、その後の反応は良かった。[H 小学校]</li> </ul>	
<p>教職員研修実践記録用紙による良かった点○反省点△</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎回最後に教頭から話があった。「冗談やからかいに出会った時は指導のチャンスととらえる。見ない聞かないふりはそうした風潮を助長する。」「LGBT 研修を通して、根底には人権教育が大事。学校や教員の常識は保護者からみたら非常識ということが多々ある。いい方に変えるのにためらいはいらない。ためらいがあるとすると教員自身の問題。」レインボーバッジ（養護着用）イエローバッジ（教頭、生徒指導着用）について。[A 中学校]</li> <li>○導入の漫画を興味深く見ており、研修に関心を持った教職員が多かった。漫画を取り入れたのは良かったと思う。[A・C 中学校 D・E・G・H 小学校]</li> <li>○最後に校長よりコメントをもらうことで、学校全体で考えていく意識がさらに深まった。相談一覧はパウチして掲示するとよいという意見を受けて、1 部作成し職員室に掲示した。多様性を意識する環境作りとしても有効。[D 小学校]</li> <li>○シナリオおすすめの絵本のところは、図書館司書が準備してくれた図書室蔵書やその本の貸し出し状況データを紹介することで、学校場面で児童と LGBT の関りの一端を具体的に示すことができた。司書には毎回資料を渡し、情報交換を行い、今回の研修にも積極的に協力いただけた。研修後に手に取って読む職員が、沢山子どもたちに読み聞かせしたいとの声もあった。[D 小学校]</li> <li>○配付資料と話す原稿があったので、そのまま使えて実施しやすかった。[D・E・G・H 小学校]</li> <li>○この研修を実施することは管理職や研究主任には伝えていたが、時期は決めていなかった。しかし週報を確認し、時間がとれそうな日を選び、すぐに実施できた。それは資料も原稿も印刷するだけの準備で済んだからだと思う。[E 小学校]</li> <li>○E 小学校の人権研修を参観させていただいた直後に実施したため、具体的な悩みや「うちの学校にはいません」➡「いないのではなく、いないことにされている。言えない雰囲気がある。」など話しやすかった。[F 小学校]</li> <li>△時間が足りなかった。（時間をかけてしまった。）[A・C 中学校 B・D・G 小学校]</li> <li>△一方的な説明になってしまった。[B 小学校・C 中学校]</li> <li>△体育館で実施したため、マイクを用意したが、風が強く聞き取りにくかったようであった。[D 小学校]</li> </ul>	<p>次回研修に向けて改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 回目は体育主任から 3 回目は特別支援教諭から 4 回目は理科主任からそれぞれの視点で話をしてもらう予定。[A 中学校]</li> <li>・図書室を会場にしてもよかった。どの場所にもこのコーナーがあるか確認できる。[D 小学校]</li> <li>・自校のアンケート結果を受けて気づいたことを導入部分にもっと付け加えるとよかった。[F 小学校]</li> <li>・時間がせまっているなかの実施となるので、あらかじめ資料をくばって読んでおいてもらう。[G 小学校]</li> </ul>
<p>その他シナリオ以外の方法で実施したこと等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談を受けたときの対応で大事なポイント」を書く用紙を配って研修中に書いてもらい、後で 5 つのポイントについて答え合わせをした。[A・C 中学校]</li> <li>・休み時間廊下で「ホモ、ゲイ、おかま、女みたいだな」と騒いでいる子どもにどう指導するか、学年間で話し合ってもらい考えた回答を発表してもらった。[A・C 中学校]</li> <li>・1/14 に人権のテーマで教職員研修があり、その際に再度まとめの形で 15 分弱、パワーポイントで研修を実施した。事後アンケートを行った後に、リビットの資料や令和元年 8 月の養護教諭研修会で柏市の教育委員会からご指導いただいた資料などを基に作成した。[B 小学校]</li> <li>・最近の情報として、令和 3 年 2 月 8 日の新聞記事「公立高校願書性別欄廃止すすむ」を追加した。令和 3 年度より千葉県公立高校入試の願書・性別欄が削除された件など紹介した。[D・H 小学校]</li> <li>・昨年 8 月に本校ですこたんソーシャルサービスの講師を招き、LGBT の研修会を実施した。研修会開始前に講師の先生に「多目的トイレを借りることはできますか」と聞かれ「はっ」とした。もし児童につ</li> </ul>	

- いて相談があったら、職員トイレを使ってもらおうとは考えていたが、外部の大人や職員については何も考えが無かったと、自分の経験談も話した。【E小学校】
- ・教職員研修を受けた家庭科専科の先生が「卒業前に必要なことだろう」と思い、6年生を対象に、LGBTの授業（45分）を実践した。【E小学校】
  - ・保健関係の書類に性別を記入する必要があるのかを見直し、必要に応じて性別欄の廃止を教育委員会に相談できるといいと思った。【F小学校】
  - ・研修の最終回に①カミングアウトした際に言われて嬉しかった言葉②逆に残念だった言葉③どうして先生に言おうと思ったかについてパワーポイントを作成し、提示した。③については「友達や親は距離が近い。上司と部下のような主従関係のような人には言いづらい。先生のように適度な距離のある存在が言いやすかった。」とのことだった。「教育相談でも適度な心の距離感はとても大切で、日ごろから距離感について意識しながら児童と対応することで、安心して話せる環境作りができるのではないか。」とまとめた。【H小学校】
  - ・パワーポイントを作成して全体の内容を凝縮した資料を作成し、最後に校長から、実際に相談を受けたことがある事例を元に、補足をしてもらった。【I小学校】
  - ・相談窓口一覧や相談項目シートを必要な時にいつでも職員が手に取れるように職員用保健関係ファイルに綴り、活用できるようにした【J小学校】

(3) 教職員研修後の知識・意識の実態把握

① 事後アンケートの集計・事前アンケートとの比較及び考察

<知識面の変化について、研修の事前事後で比較した>

グラフ NO		事前 (%)	事後 (%)	資料
23	LGBTという言葉を知っている	94.8	100.0	6項
24	LGBTについて説明できる	65.4	89.7	6項
27	性同一性障害に関わる法律や通知を知っている	51.8	67.7	6項

<意識面の変化について、研修の事前事後で比較した>

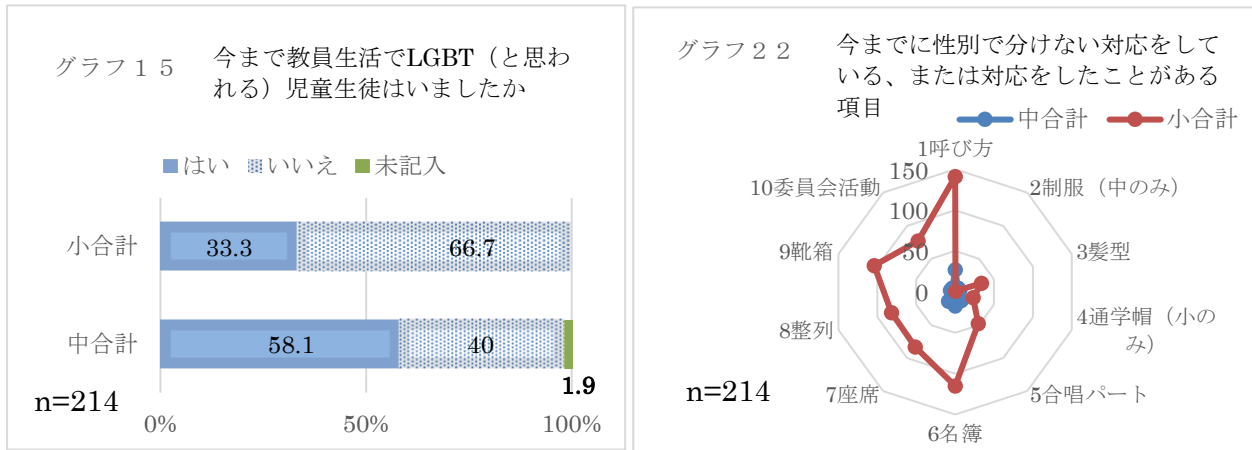
グラフ NO		事前 (%)	事後 (%)	資料
25	LGBTについて学ぶ必要があると「思う」「少し思う」	98.6	100.0	6項
26	LGBT（と思われる）児童生徒の相談にのり、対応する自信が「ある」「少しある」	29.9	57.9	6項
28	LGBTについて学校で教育する必要があると「思う」「少し思う」	92.9	95.8	6項

教職員研修前と後を比較すると知識面、意識面の両方で数値が上がったことから、実態に応じた校内研修をすることにより、LGBTに対する職員の知識と意識の向上がみられたと言える。

また、事前アンケートで聞いた「性別で分けない対応をしている、又は対応したことのある項目」では、制服で7人（3.3%）、通学帽では24人（11.2%）、髪型で40人（18.7%）の教職員が選択した。事後で聞いた「性別で分けない対応ができると思われる項目」では、制服で105人（49.1%）、通学帽で119人（55.6%）、髪型で132人（61.7%）の教職員が選択したことから、今まで行っていなかった対応も、教職員研修を実施したことで、「対応できる」「対応すべき」といった意識へ変化したためと考えられる。

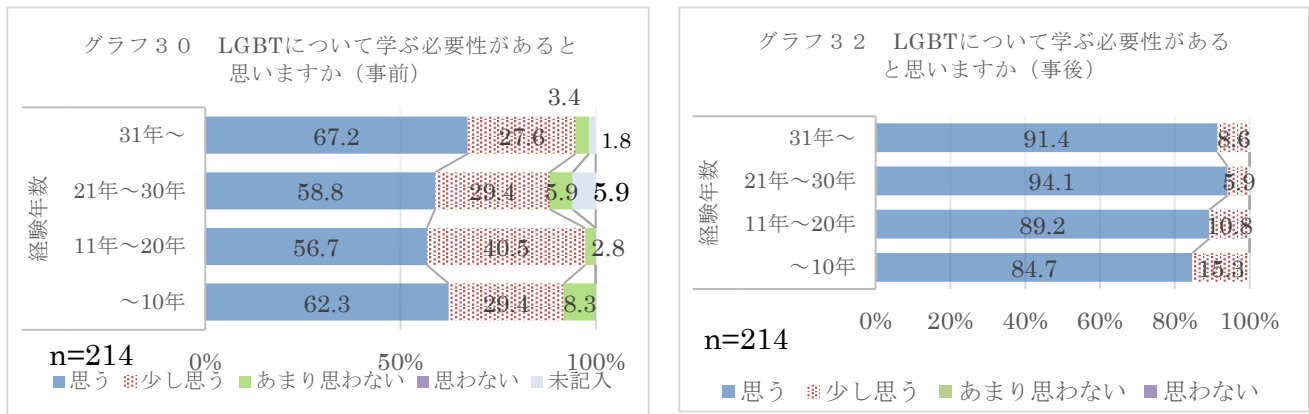
ただ、知識面での法律や通達については「知っている」が67.7%（事前51.8%）であり、思うように数値が伸びなかった。私たち教職員が学校で実践していくには法的根拠は必須であることから、今回、第1回の研修内容に盛り込んだが、回を重ねる毎に記憶が薄れてしまったと考えられる。また、今後新たな法律や通達が出ることも想定し、単発的な啓発に留まらず定期的な情報提供が必要だと考えている。

## ② 小中学校別の比較



グラフ 1.5・2.2では、小中の結果で差が開いた。中学校では58.1%が今までの教員生活でLGBT（と思われる）生徒がいたと回答していながら、性別で分けない対応をしている、または対応をしたことがあると回答した項目が小学校よりも少ない。この結果より、中学校は小学校よりも性差への対応の難しさが浮き彫りとなった。

## ③ 経験年数別の変化



LGBTについて学ぶ必要性を問う項目では、どの年数でも「思う」との回答が事後で増加した。特に経験年数21年以上30年以下では事前58.8%であったが、事後では94.1%まで増加しており、全体をみても、11年以上～30年の中堅層教職員で意識が高まったことがわかった。

## ④ 教職員研修の感想

教職員研修の感想について、様々な意見が挙げられたが、内容別に6つに分けることができた。



#### 教職員研修自体に関すること

- ・ 具体的な事例があり、話し合えてよかった、次回の研修も楽しみ。
- ・ 研修により相談しやすい環境になった。

#### 子どもたちへの全体指導に関すること

- ・ 子どもたちが学ぶ機会があってもよい。どう指導すれば（理解させていくか）よいか不安はある。
- ・ 周囲の理解を得るため、周りの児童にも指導が必要。
- ・ 学習の中で、知っていることを話すことができた。

#### 対応への不安に関すること

- ・ 会ったことがないのでどのような対応ができるか不安…。
- ・ 「誰でもトイレ」は性犯罪につながらないか不安。



#### 関心の高まり

- ・ ニュースや雑誌でも目にとまるようになった。「さん」で呼ぶきっかけになった。
- ・ 性別で分けない対応、全部実行したい！

#### 教師のあるべき姿に関すること

- ・ 自分自身をもっと学びたい。知識を得て子どもに寄り添ったり、授業で教えられるようになったりしたい。
- ・ 学校で学んだことを親にも周知して一緒に考えていける学びになるとよい。
- ・ 子どもにとって「相談したい」と思ってもらえる教師になりたい。
- ・ 教師の発信で周りの人を変えていく力があることを学んだ。

#### 自分らしく居られる学校づくりにつながること

- ・ 根底は人権教育。冗談やからかいに出会ったときは指導のチャンス。
- ・ 子孫繁栄の観点からみると、男としての、女としての役割も生徒は知る必要がある。両方知った上で選択する、または選択しないことが望ましい。
- ・ 男子、女子という枠組みではなく、個人に寄り添った教育が求められている。常に子どもたちが自分らしくいられる学校づくりをしていくべき。本人の幸せが大切。

## 5. 研究の成果と今後の課題

### (1) 研究の成果

事前アンケート調査により、「LGBT」という言葉や意味は知っているが、それ以上のことについて詳しく学んではいない者が多いこと、実際に「LGBT」と思われる児童生徒はいると思われるが、どのように対応すればよいかわからず、「LGBT」について、学びたいという者が多くいることが分かった。

そのため、①教育の根拠となる法律や通知などの基本的知識を押さえながら、「LGBTとは何か」②「本人への心の支援」③「周囲の偏見への対応」④「環境面での支援」の4つを柱にして教職員研修を実施した。配付資料は、自校の事前アンケート調査結果の数値を入れたり、漫画を導入として取り入れたり、新聞記事を採用したり、なるべく実態に応じた、かつわかりやすいものになるよう工夫した。また事例を通して自分なら実際にどんな行動をとることができるか考えられるようなものとした。さらに学びたい人には参考文献も紹介するようにした。事後のアンケートで、研修会での配付資料が「役に立ちそう」

という回答は、「思う」「少し思う」を合わせて100%という非常に高い評価を得られた。

教職員研修については、養護教諭に向けた「ワンポイントアドバイス」や各研修会時に使える「シナリオ」も作成したことで、どの学校でもとりくみややすくなり、内容面での統一化を図ることができた。

さらに、いざ相談を受けたらどんな対応をとればよいかわかるような「相談項目シート」や「相談窓口一覧」を作成し、当事者・家族に配慮することや、校内での受け入れ体制、相談窓口をすみやかに確認できるようにした。

1年間教職員研修を行い、事後アンケートでは、知識面での質問項目（LGBTの言葉、説明や教育の根拠となる法律など）すべてにおいて数値が上がったことから、知識面の向上がみられたと言える。意識面での質問項目（学ぶ必要性、相談への自信、学校での教育の必要性）も、すべてにおいて数値が上がり、意識面の向上がみられたと言える。今まではほとんど性別で分けていたが、性別で分けなくても対応ができると思われる項目もあるという回答も多く得ることができた。自由記述の感想からも、意識面の向上を読み取ることができた。

教職員研修後、少しずつではあるが、教職員や各学校に変容がみられている。レインボーグッズを身に着けたり、図書館司書の協力も得て書籍を保健室や図書室に設置したり、LGBTに関する資料を掲示したりする教職員や学校が増え、環境面での整備が進んだ。

また、授業（や短学活）の中でLGBTについて取り上げたり、全校で敬称を「さん」で統一したりする教職員や学校も増えた。

市内のC中学校では、今まで男女別々の色ジャージであったが、今年度から男女同色のジャージに変更した。また制服においては、生徒と保護者にアンケートを実施し、スカートとスラックスを選べるようにした方がよいか検討中である。

市内D中学校では、すでに制服のスカートとスラックスを自由に選択できるようにしている。これはLGBTの生徒を含め誰もが、多様な選択肢の中から自分らしいものを選び生活しやすくすることが目的である。

そして何より私たち養護教諭自身にも気づきがあり、普段使用している保健書類の全てに性別の記入が必要なのかを考えるきっかけとなった。これからの日常の執務についても、多様な性を持つ子どもたちがいるという視点を持って対応したいという気持ちが高まった。

研修を始めた当初は、性的マイノリティの人々＝「LGBT」と認識していた私たちであったが、研修を重ねるにつれ、性的マイノリティをもっと幅広くとらえていく必要がある（**Questioning** クエスチョニング：性的指向や性自認がはっきりしない、決められないあるいは悩んでいる状況にある人もいる）こともわかった。

## （2）今後の課題

- ・対応の自信については、事後は事前に比べ、数値は増えたものの、事例によりケースバイケースであろうとも思われる。本当の自信につなげるためには、研修を継続し、その内容も、お互いの経験の共有化を図ったり、事例検討を取り入れたり工夫していくことが必要だと思われる。
- ・今回、教職員研修の実施は、研究班の学校8校＋協力校2校のみであったが、今後反省

点を踏まえ改善をし、四街道市内全ての学校で実施できるよう働きかけていきたい。

- ・「性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童生徒への対応」に関する教育は、いじめや不登校等の人権教育としても必要不可欠である。そのため、県内他市では教育委員会が中心になり、教職員研修や教材開発、相談窓口の開設を行っているところもある。四街道市でも教育委員会と連携できれば、さらにLGBT教育の充実が図られると思われる。

思春期に自身のセクシュアリティに気づくLGBTの子どもが多いのは、第二次性徴が始まることや周囲で恋愛の話題が増え、自分のセクシュアリティを意識する機会が増えるためだと考えられる。

宝塚大学の日高庸晴氏は、「子どもの“人生を変える”先生の言葉があります 2021」の中で、「LGBTsの子ども達は、誰が信頼できる大人であるかしっかり見えています。この先生ならば自分のことをわかってくれるだろうと信じて、期待して、本当の自分の話をするでしょう。学校での取り組みや先生のさりげない一言が、彼らの人生を変えることになります。」と述べている。

いつでも相談にのったり、適切な情報を提供したり、そして何より本人やその家族が安心でき、自分らしく居られる学校であるよう、今後も私たち教職員の学びを重ねる必要がある。

#### <参考文献>

- ・渡辺大輔監修 いろいろな性、いろいろな生き方 いろんな性と向き合う、35人のインタビュー (全3巻) ポプラ社 2016
- ・薬師実芳ほか LGBTってなんだろう？自認する性・からだの性・好きになる性・表現する性 合同出版 2019
- ・遠藤まめた 先生と親のためのLGBTガイド もしもあなたがカミングアウトされたなら 合同出版 2016
- ・QWRC&徳永桂子 LGBT なんでも聞いてみよう中・高生が知りたいホントのところ 子どもの未来社 2016
- ・日高庸晴 子どもの“人生を変える”先生の言葉があります 2021
- ・特定非営利法人ReBit監修/殿ヶ谷美由紀 漫画「ふつう」ってなんだ？LGBTについて知る本 学研プラス 2018
- ・特定非営利法人ReBit 多様な性ってなんだろう<先生向けハンドブック> 2017
- ・藤川大祐他 私たちの選択肢 ストップイットジャパン 2018
- ・ピーター・パーネル タンタンダンゴはパパふたり ポット出版 2008
- ・LGBTを知りサポートするためのガイドライン 千葉市 2018

#### <共同研究者>

旭小学校	角田潤乃・明杖優子・高田桃子	四街道北中学校	本島亜矢子
四和小学校	荒川里奈	大日小学校	山畑先代
栗山小学校	鈴木萌香・佐藤 藍	八木原小学校	竹本真澄・吉田 恵
	前原孝予・村山遥菜	千代田中学校	大村敦子
和良比小学校	豊田こず枝	四街道小学校	飯島かおり